

# (株)大阪城ホール中期経営計画（要約版）

（平成 30 年度～令和 2 年度）

平成 30 年 2 月策定

大阪城ホールは、大阪の国際化、文化、スポーツの振興に寄与することを目的に、大阪 21 世紀計画のメモリアルホールとして、昭和 58 年 10 月にオープンして 35 年目を迎える。

## I 経営理念

当社は、大規模集客施設である大阪城ホールを運営し、国際的・全国的レベルの文化・スポーツ等のイベントの開催を通じて、人々に夢と感動を与え、大阪の都市魅力の向上を図り、文化の創造に貢献していく。

## II 経営方針

- 1 ホールの施設運営にあたっては、ご利用される皆様が安全、安心、快適にご利用いただけるよう、お客様本位の視点による施設運営をめざしていく。
- 2 イベントの積極的な誘致により、稼働率を確保し、収益性の向上とコストの削減に取り組む、将来にわたり安定した自立的な経営をめざしていく。

## III 会社の現況と経営環境

### 1 現況

施設・設備の機能増強と安全・安心・快適なホールづくりをめざして、平成 26 年度と平成 27 年度の両年度にかけ、アリーナを約 80 日間休館して大規模改修工事を実施した。

### 2 会社を取り巻く環境と経営課題

#### (1) 会社を取り巻く環境

##### ア 五輪開催の影響

五輪が開催される 2020 年は、アーティストだけでなく、人員・機材も五輪関連に集中することが想定され、コンサート開催の減少、また、大規模集客施設の新増設により、首都圏一極集中型のライブの増加が懸念される。

さらに、来日外国人の増加に伴い、ソフトターゲットを対象とするテロの危険性が增大する恐れがある。

##### イ コンサート等に関連する動向

コンサート等を取り巻く環境では、海外アーティストに一時ほどの勢いがなくなっており、ライブビューイングなどの新たな動きもコンサート開催機会を減少させる懸念がある。

(2) 会社の経営上の課題

- ア アリーナ等の利用に係る課題
- イ 安全管理及び施設保守管理・整備に係る課題
- ウ 社員育成に係る課題

IV 課題への取組

1 営業活動

(1) 施設稼働率の向上に向けた営業プロモーション

- ア 平日の利用促進の取組み
- イ 仮申込の取消による空き日発生の極小化
- ウ 音楽分野以外のユーザーへの営業活動
- エ ホール利用料金改定に向けた検討
- オ ホール利用規定等の見直し
- カ アリーナ以外施設の利用促進の取組

(2) 情報収集活動

- ア 五輪開催への対応
- イ 大規模アリーナとの情報交換
- ウ 広域的営業活動

(3) 増収化対策

2 安全管理対策

安全・安心・快適な施設づくりに万全を期する安全管理対策に取り組む。

- (1) 舞台設営時の安全管理対策
- (2) 災害やテロ等に備えたハード・ソフト両面の取組

3 建物・施設の改修・整備等の取組

- (1) 施設・設備の適切な保守管理及び必要に応じた改修工事の実施
- (2) 中長期保全計画に基づく計画的な施設・設備の更新工事等
- (3) 次期大規模改修工事と必要資金の確保

4 事業運営体制の見直しと経費削減への取組み

事業運営体制を不断に見直し、引き続き、経費節減に取り組み、利益率の一層の向上を目指していく。

5 人材育成、勤務労働条件の改善等